

宇 都 宮 短 期 大 学

2020 年度 自己点検・評価報告書 (各委員会 PDCA 報告)

1. 自己点検評価・推進部会	P.1
2. 教務委員会	P.2
3. 入学試験・広報委員会	P.3
4. 学生委員会	P.4
5. キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会	P.5
6. 就職委員会	P.6
7. 研究・図書委員会	P.7
8. 地域福祉開発センター	P.8
9. 大学運営・財務	P.9

2021 年 5 月

自己点検・評価委員会

2020年度 自己点検評価・推進部会PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
1. 新型コロナウイルスの感染防止のため、全学的・各委員会で対策・対応を講じながら、自己点検・評価活動を遂行する。	国や地方公共団体、各種養成施設協会等の新型コロナウイルス感染防止に関する指針や、本学独自の全学的・委員会別対策をもとに、常に注意・喚起しながら実施した。	4・5月はオンライン授業、6月以降は対面授業を実施した。陽性者もなく、修了した。	引き続き、必要に応じて対策・対応を見直しながら実施していく。
2. 建学の精神を周知・点検する。	入学時の学長挨拶、新入生オリエンテーション時の学科長講話および「全人教育講座」を通して、周知を図った。	卒業時アンケート結果から、音楽科は全員知っていると回答したが、人間福祉学科では約20%、食物栄養学科では6%が知らないと回答した。	引き続き、計画を立てて周知していく。
3. 内部質保証 (1)大学の理念、目的、中長期計画、各種方針等に照らしながら、自己点検・評価を行う。	内部質保障体制のための規程を点検し、改定した規程により、内部質保証の運営を実施した。年度当初のPに対する実施状況を10月に検討し、後期の実践を促した。	各委員会ともに、計画を実践し、年度末の全学的な自己点検・評価を行った。	次年度も、計画的に自己点検・評価を実施する。
(2)学習の成果を測定するための量的・質的データのとり方とルーブリックによる評価方法の導入を検討する。	ポートフォリオについて、教職員の共通理解を図るためにFD・SD研修を9月18日(金)に実施した。	ルーブリック評価の導入に向けた具体案を作成することにしたが、コロナ禍により、FD・SD研修が実施できなかった。	次年度早い時期に、ポートフォリオとルーブリック導入に向けてFD・SD研修を開催して、共通理解と導入を図っていく。
(3)教育目的・目標を点検する。	人間福祉学科では社会福祉士・介護福祉士履修モデル及び医療事務履修モデルのカリキュラムを見直し、改訂を行った。	人間福祉学科では、カリキュラム改正に伴い、教育目的・目標との点検を行った。	各学科ともに、引き続き、点検していく。
(4)規程を点検する。	大学の理念、目的等に対応するよう宇都宮共和大学との整合性も含めて規程を点検した。	一部未修正の規程があった。	引き続き点検・改正していく。
(5)教育・研究活動を点検する。特に、FD活動及びSD活動を組織的に実施し、教職員の質の向上を図る。また、研修会等の活動を通じ、コンプライアンス意識やモラルの向上を図る。	①前期・後期ともに「授業アンケート(学生)」や「授業改善アンケート(教員)」の実施により、教員の教育資質向上を図った。後期授業アンケートでは、前期結果を含めて、FD報告書としてまとめた。②コンプライアンス意識やモラルの向上のためのFD・SD研修2月12日に実施した。③ZoomやICT活用による授業のためのFD・SD研修会、オンラインで授業のためのFD研究会を5月7日、2月19日に実施した。④キャンパス・ハラスメント研修会を3月5日と3月8日に実施した。⑤SD研修を10月26日、2月8日実施して、事務職員の資質向上を図った。⑥紀要への投稿を促した。	授業アンケート結果で評価の低かった「事前・事後学習について」向上させるための検討を行い、次年度の授業目標とした。Zoomによるオンライン授業のためのFD研修会では、その成果を各教員とも実際のオンライン授業で発揮した。紀要投稿者はやや少なかった。	教職員のコンプライアンスや教育の資質向上のために、引き続き組織的にFD・SD研修を実施する。FD報告書をもとに、次年度の教育の質の向上を図る。
(6)内部質保証の客観性及び妥当性を担保するために、2023年度認証評価機関による認証評価を受審する。その準備を実施する。	2023年度の認証評価受審に向けて体制を検討した。	中間年として自己点検・評価報告書を作成した。	引き続き、2023年度の認証評価受審に向けて、計画を立てて実施していく。
(7)外部の有識者、卒業生等の意見を取り入れた評価を行う。これらの評価結果や指摘事項に対し、全学的に対応を検討し迅速かつ適切に対処する。	外部評価システムの導入に向けての検討ができなかった。	外部評価システムの導入に向けての検討がコロナ禍によりできなかった。	外部評価に向けたアドバイザー会議(4~5名)の開催を検討する。

2020年度 教務委員会 PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
1. 教育課程編成・実施の方針を明確に示す。 ①シラバスに必要な項目の明示 ②厚生労働省の「社会福祉士学校及び介護福祉士学校の設置及び運営に係る指針について」の一部改正に伴う、社会福祉士と介護福祉士養成のカリキュラムの改正と、医療事務履修モデルのカリキュラムについて見直し ③学科・専攻課程の卒業認定・学位授与方針の定期的点検と教育の見直し ④3学科の科目区分の統一の検討	①シラバスに必要な項目の明記をシラバス作成時に依頼し、受理時に確認した。②人間福祉学科社会福祉専攻社会福祉士履修モデルと介護福祉専攻介護福祉士履修モデルのカリキュラムの改正案を作成し、9月末に厚生労働省に届出書類を提出した。医療事務履修モデルのカリキュラムを改訂した。これらは2021年度生から実施することとした。③②の改訂に伴い、卒業認定・学位授与方針を点検した。④3学科の科目区分の統一を検討した。	①いくつか必要事項の記載不備が見られた。②人間福祉学科のカリキュラム改正に伴い、カリキュラムツリー・マップを修正したが、他学科との十分な検証に至らなかった。カリキュラムポリシーの表記について検討が必要である。	①シラバスに必要な項目を明示について引き続き、依頼時の注意と受理時にチェックする。 ②引き続き、人間福祉学科を含め、他学科のカリキュラムについて見直していく。
2. 教育課程は、短期大学設置基準ののっとり、幅広く深い教養を培うよう編成する。	教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んだ。「全人教育講座」と「キャリアデザイン」について、3学科統一を検討し、次年度から16時間1単位必修とした。	建学の精神「全人教育(人間形成の教育)」について、3学科で統一した考え方で実施することとなった。	引き続き検討する。
3. 教育課程は、短期大学設置基準ののっとり、職業又は実際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施する。	3学科とも、専門教育だけでなく実際生活にも必要な教養教育も取り入れた実施体制になっているか検討した。	人間福祉学科ではカリキュラム見直し時期であったため、念入りに検討した。	引き続き検討をする。
4. 学習成果の獲得状態を量的・質的データを用いて測定するしくみについて検討する。 ①GPA分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家資格の合格率、学生の業績の集積(ポートフォリオ)、ルーブリック分布などを活用 ②学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、卒業率、就職率などを活用 ③学習成果を量的・質的データに基づく評価と公表	①GPA分布(音楽科はこれにかわる指標)、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家資格の合格率等を用いて学習効果を検討した。ポートフォリオについては、FD研修を9月18日に実施した。②学習成果の獲得状況について学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、大学編入学率、卒業率、就職率などを活用した。③学習成果の質的データを主に評価し公表した。	①音楽科のGPA分布導入については、検討が必要である。ポートフォリオとルーブリック分布の導入に向けて、さらに検討が必要である。 ②インターンシップや留学などの活用は皆無であった。③学習成果を図る質的データの測定法とその公表の検討が必要である。	①引き続き、GPA分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家資格の合格率、学生の業績の集積(ポートフォリオ)、ルーブリック分布などの活用について検討する。②インターンシップや留学等については引き続き検討する。 ③学習成果の質的データの測定法導入を引きつづき検討し、公表していく。
5. 学生の卒業後評価への取り組みを行う。 ①卒業生の進路先からの評価を聴取 ②聴取した結果を学習成果の点検に活用	①音楽科と人間福祉学科は卒業生の進路先から評価を聴取した。②聴取した結果を学習成果の点検に活用した。	①の聴取数は例年よりも少なかった。②次年度は、食物栄養学科も含めて、引き続き実施し、点検・活用する。	引き続き実施し、点検・活用する。
6. 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用する。教員は次の点を行う。①シラバスに示した成績評価基準による学習成果の獲得状況の評価 ②学生による授業評価を受けて、授業改善に活用 ③授業内容の授業担当者間で意思の疎通・協力・調整 ④教育目的・目標の達成状況の把握・評価 ⑤学生に対する履修及び卒業に至る指導	①～⑤について、成績評価や各学期末の学生による「授業アンケート」評価結果からの教員コメント及び単位取得率等から、各教員の学習成果獲得に向けての教育活動について検討した。	①～⑤について、成績評価や各学期末の学生による「授業アンケート」評価結果からの教員コメント及び単位取得率等から、各教員が学習成果獲得に向けて努力していることが確認された。	①～⑤について引き続き、教員の共通理解を高めて実施する。
7. 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行う。 ①学習、学生生活のオリエンテーション ②学習の方法や科目の選択のためのガイダンス ③学生便覧等、学習支援のための印刷物(ウェブサイトを含む)の発行 ④基礎学力不足や優秀な学生に対する学習支援 ⑤学習上の悩みなどの相談・指導助言を行う体制の整備 ⑥学習成果の向上を図るために、学生向けポータルサイトの開設	①～③について、教務委員会、学生委員会、クラス担任を中心として全教職員が連携して組織的に実施した。④については、資格試験受験に対する補習授業や各科目担当が速度の遅い学生に対して学習支援を実施した。⑤については、こころとからだの相談室を運営し、専門職が他の教職員と連携する体制を整備し、実施した。	①～⑤については、実施結果を検討し、ほぼ良好な成績を得ていることから、学習効果に繋がっていると思われた。⑥次年度4月から学生向けポータルサイト開設のための準備を進め、開設した。	①～⑤について、引き続き継続する。 ⑥については次年度から開始し、充実を図る。

2020年度 入学試験・広報委員会 PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 入学定員の充足に向けた活動</p> <p>①入学定員の充足に向けて、高校訪問、DM 送付、などを行い、高校生の進路に関する動向を把握する。</p>	<p>①入学定員の充足に向けて、DM 送付と感染防止対策に努めて高校訪問、進学ガイダンス参加などの活動を実施した。</p>	<p>コロナ禍であったが、OCや進学ガイダンス等に多くの方に参加していただけた。</p>	<p>引き続き、必要に応じて感染症対策を徹底して高校訪問や進学ガイダンス等に参加し、進路動向を把握する。</p>
<p>②2021年版の学校案内及び入試ガイドの作成、ホームページの更新を行うとともに、外部の入試サイトも活用して、高校生にとって魅力的な学校であることをPRする。</p>	<p>②2021年版の学校案内及び入試ガイドの作成、ホームページの更新を行うとともに、外部の入試サイトも活用して、高校生にとって魅力的な学校であることをPRした。5月に学園入試説明会を開催予定であったが、感染予防のために中止した。新たにオンラインオープンキャンパスのサイトを立ち上げた。</p>	<p>各学科の紹介をHPに動画掲載した。状況に応じたPR方法の拡大・充実を図る必要性を確認した。</p>	<p>2022年版学校案内、入試要項を検討・作成、ホームページの更新を行う。</p>
<p>③入学者受け入れ方針に対応した入学者選抜を、公正かつ適切に実施する。</p>	<p>③入学者選抜の方法を検討し、これまでのA0入試を総合型選抜に改称した。人間福祉学科・食物栄養学科は、総合型選抜、学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制)、特待生入試、一般選抜、社会人特別入試、共通テスト利用入試を実施した。音楽科は、総合型選抜、学校推薦型・特待生選抜、一般・特待生選抜、を実施した。3学科とも公正かつ適切に実施した。面接試験に、口頭試問を導入した。</p>	<p>3学科とも入学者選抜を問題なく公正かつ適切に実施して、新入生を迎えた。中期計画に基づく入学者数は95名で、定員120名に対する目標数と一致し、達成率は79.2%であった。</p>	<p>引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応した総合型選抜や一般選抜、推薦型選抜、大学共通テスト等の入学者選抜を実施し、入学者の増加を図る。</p>
<p>④学校案内やリーフレット等に授業料、その他入学に必要な経費を明示する。</p>	<p>④学校案内やリーフレット等に授業料、その他入学に必要な経費を明示した。</p>	<p>2022年度の学校案内等作成準備に向けて、改めて全学科の掲載項目の内容を確認した。</p>	<p>2022年度の学校案内、入学試験ガイドにも明示する。</p>
<p>⑤アドミッションオフィスと連携して各種募集活動を円滑に行う。</p>	<p>⑤アドミッションオフィスと連携して業者主催進学ガイダンスの参加、学校見学の受け入れ等を実施した。</p>	<p>入試説明会の対応が迅速にかつ適切にできるように改善した。</p>	<p>引き続きアドミッションオフィスと連携して業者主催進学ガイダンスへの参加や学校見学の受け入れを行う。</p>
<p>2. 入学者に対する支援のしくみづくり</p> <p>①奨学金制度の見直しを行う。</p>	<p>①人間福祉学科・食物栄養学科では、授業料免除制度(地域創生奨学金制度、入試特待生制度)、入学金免除制度(資格特待生制度)を新しい基準で実施した。音楽科では、推薦・特待生選抜、一般・特待生選抜により、授業料、入学金免除の選考を実施した。また、4年制音楽大学との比較における経済的優位性や有名音楽大学へ3年次編入指定校で進学するメリットなどを、PRした。</p>	<p>3学科とも新しい基準による奨学金を利用した入学者が増加した。</p>	<p>引き続き、人間福祉学科・食物栄養学科では、「授業料特待生制度」「入学金特待生制度」の名称、区分、基準を整理・見直す。音楽科では、引き続き入学者選抜の選考基準によって実施する。</p>
<p>②入学手続き者に対して授業や学生生活に関する情報提供や入学事前学習を行う。</p>	<p>②入学手続き者に対して授業や学生生活に関する情報提供や入学事前学習の内容を検討、更新した。</p>	<p>入学内定者全員から入学事前課題が提出された。内定者全員が入学した。</p>	<p>入学後に事前学習課題を返却する。引き続き、次年度入学生用の事前学習課題や情報提供等について検討していく。</p>
<p>3. 情報収集と情報発信の充実</p> <p>・情報管理システムについて検討する。</p>	<p>効果的な募集活動を行うため、他大学の動向も注視しながら入試報活動で得られた情報について管理、共有するために、報管理システムを「スタディサプリ」に変更した。</p>	<p>情報管理システム「スタディサプリ」に各種情報を入力し、情報を共有した。</p>	<p>引き続き「スタディサプリ」で高校訪問情報を管理する。</p>

2020年度 学生委員会 PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 学習成果の獲得に向けて学習支援を行う。</p> <p>①新年度及び後期授業に向けてのオリエンテーションを行う。</p> <p>②合宿交流研修を実施する。</p> <p>③生活安全講話を実施する。</p>	<p>①4月1日、3日、4日に新年度のオリエンテーションを感染防止の観点から学科別を実施した。後期の授業に向けては、8月31日に実施した。</p> <p>②4月に実施予定であったが、新型コロナ感染防止のため、9月に延期し、9月2日半日学内研修として実施した。</p> <p>③新型コロナ感染防止策を講じた生活安全講話を7月に実施した。</p>	<p>①学生委員会で伝達事項を確認し、学科別オリエンテーションを実施した。後期開始前のオリエンテーションは、学生各自の再確認ができた。</p> <p>②半日研修となったため、主に学生主体による1・2年生の交流となったが、楽しく有意義な時間であったとアンケート結果から得られた。</p> <p>③対面授業は、生活安全講話に基づき、実施した。</p>	<p>①引き続き学科別に感染防止対策に努めて実施する。</p> <p>②4月に、感染対策をしながら一日学内研修として実施する。</p> <p>③感染防止策を講じた生活安全講話を実施する。</p>
<p>2. 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を行う。</p> <p>①学生生活に関する調査を実施し、現状の把握と改善を図る。</p> <p>②教育研究備品、施設について、年次計画を立てて充実を図る。</p> <p>③キャンパスアメニティについて、学生の希望を聞き充実していく。</p> <p>④「こころとからだの相談室」を運営する。</p> <p>⑤学生個人面談・保護者個別教育懇談会を実施する。</p>	<p>①「学生生活に関する調査」を入学後と卒業次1月に実施した。</p> <p>②調理実習室の空調設備を拡充した。</p> <p>③キャンパスアメニティについて、学友会総会等で学生の希望を聞き充実を図った。</p> <p>④学生が学びやすい環境を整えるために、「こころとからだの相談室」を運営して対応した。</p> <p>⑤クラス担任が個人面談を5月と10月に実施し、学生の心身の状態や進路等に関する事項を把握した。また、保護者の希望者に対して個別教育懇談会を7月と9月に実施した。</p>	<p>①入学時の調査からは、新入生の学習や学生生活に対する期待や不安を把握し、その対策を講じた。卒業時の調査では2年間の学習成果の獲得に向けての課題の抽出を行った。</p> <p>②熱中症対策ができた。</p> <p>③学友会総会等での要望により、必要な備品を設置した。</p> <p>④「こころとからだの相談室」の相談者は例年より少なかった。</p> <p>⑤学生個人面談と保護者個別教育懇談会で得られた情報は必要に応じて教員で共有し、学業や進路の支援に役立てた。</p>	<p>①引き続き、「学生生活に関する調査」を実施する。</p> <p>②③については、引き続き教育研究備品を学生からの要望により購入し、施設の充実を図る。</p> <p>④「こころとからだの相談室」を継続して運営する。</p> <p>⑤継続して学生支援を行う。</p>
<p>3. 学友会活動を支援する。</p> <p>①レクリエーションフェスティバルを行う。</p> <p>②彩音祭を行う。</p> <p>③サークル活動の支援を行う。</p>	<p>①レクリエーションフェスティバルを9月に実施予定であったが、新型コロナ感染防止のため中止にした。</p> <p>②彩音祭を11月15・16日に実施予定であったが、新型コロナ感染防止のため、規模を縮小して15日のみ開催した。</p> <p>③コロナ禍の現状を把握し、感染予防を喚起しながらサークルの活動を支援した。</p>	<p>①新型コロナ感染防止の対策をして、実施を希望する声があった。</p> <p>②規模は縮小したが、学生は学科別に計画を立てて、開催・発表に向けて準備をして当日を迎えていた。協力体制のもと、思い出に残る大学祭になった。</p> <p>③サークル活動を教職員協力のもと、進めたがコロナ禍の影響もあり、活動サークルが少なかった(活動中17団体、休止中27団体)。</p>	<p>①再開に向けた計画を立てて、支援を継続する。</p> <p>③引き続き、彩音祭を継続する。</p> <p>③サークル活動における学生支援を充実して、新たなサークルを立ち上げる。</p>
<p>4. 卒業生への支援</p> <p>①同窓会(爽風会)運営・同窓会総会の実施</p> <p>②爽風だよりの発行</p>	<p>①11月15日午後実施したが、参加者は少なかった。</p> <p>②19号(2021)を発行した。</p>	<p>①コロナ禍により1日開催のため、卒業生全体の参加者も少なかった。②食物栄養学科一期生の卒業により、入会者が多くなった。</p>	<p>①②食物栄養学科一期生の卒業により、支援の幅を広げて充実を図っていく。</p>

2020年度キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会 PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 学生、教職員に対し、キャンパス・ハラスメント防止のための活動を行う。</p>	<p>①4月のオリエンテーション時に、学生を対象に、キャンパス・ハラスメントについてと相談体制について、パンフレットと学生便覧を使用して説明した。その後、キャンパス・ハラスメントについてのアンケートを実施した。</p> <p>②卒業時の「学生生活に関する調査」アンケートの項目にキャンパス・ハラスメントについての質問を新設した。</p> <p>③教職員を対象に、キャンパス・ハラスメントの研修会を、3月5日と3月8日に実施した。終了後にアンケートを実施した。</p>	<p>①オリエンテーション時のキャンパス・ハラスメントについてのアンケート結果をもとに、学生たちの認識把握や情報収集をした。その結果を踏まえ、改善点を検討した。</p> <p>②卒業時のアンケート結果では、3学科ともキャンパス・ハラスメントはなかったと回答された。</p> <p>③アンケート結果より、キャンパス・ハラスメントの具体的な内容が把握できたことから、定期的な研修会の必要性が窺えた。</p>	<p>①次年度も引き続き、キャンパス・ハラスメント防止のための活動を行う。</p> <p>③次年度も引き続き、教職員を対象とした研修会の開催を検討し、キャンパス・ハラスメント防止のための活動を行う。</p>
<p>2. キャンパス・ハラスメントの相談体制を整える。</p>	<p>キャンパス・ハラスメント相談員を配置して、担任や「こころとからだの相談室」担当者と連携し、キャンパス・ハラスメントの対応をした。</p>	<p>キャンパス・ハラスメント委員や相談員への相談はなかった。担任の先生への相談もハラスメントに関する内容はなかったが、引き続き、関係者と連携して対応していくことを確認した。</p>	<p>引き続き、キャンパス・ハラスメント委員や相談員を学科別に設置するとともに、担任と連携して相談しやすい体制を作っていく。</p>

2020年度 就職委員会 PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 進路に関する総合的な支援体制の推進</p> <p>①進路希望調査および進路支援活動の実施</p> <p>②学生対象の就職ガイダンスの実施</p> <p>③保護者向け就職ガイダンスの実施</p> <p>④ハローワーク職員による学内相談会の実施</p> <p>⑤学科別支援活動計画と実施 (音楽科) 音楽企業就職説明会の実施 教員採用試験対策講座の新規開催 (人間福祉学科) 県社協主催「福祉の仕事フェア」参加 (食物栄養学科) 栄養士関連企業によるガイダンス開催</p> <p>⑥SPI (自己性格) の継続実施</p>	<p>①担任による5月に行う学生面談をオンラインで実施した。その中で進路希望調査を行った。1年後期からは定期的な学生面談や就職活動の中で、支援活動を対面及びオンラインによる面談を通して行った。</p> <p>②全学的な学生対象の就職ガイダンスを音楽科は3回、人間福祉学科・食物栄養学科は1回実施した。</p> <p>③6月13日の後援会総会開催日に宇都宮共和大学と合同で保護者向け就職ガイダンスを実施した。</p> <p>④ハローワーク職員による学内相談を月1・2回実施した。</p> <p>⑤学科別に支援活動を実施した。 (音楽科) カワイによる音楽企業就職説明会を7月22日に実施した。また、教員採用試験対策講座を新規に開設し、15回実施した。 (人間福祉学科) 県社協主催「福祉の仕事フェア」が7月18日に開催され、参加を促した。 (食物栄養学科) 栄養士関連企業によるガイダンスを6月23日、6月30日に実施した。</p> <p>⑥マイナビによるSPI (自己性格) を12月14日に実施した。</p>	<p>①5月の担任による学生面談の中で進路希望調査を実施した。それらを学科別に専任教員で共有し、担任、就職委員会を中心に就活・進学支援を行った。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響により、就職活動のスケジュールが後倒しになり例年と異なった。対策を行いながら、学科ごとの特色に応じ、学内サポート体制の説明をした。</p> <p>③新型コロナウイルス対策を行いながら、保護者向け就職ガイダンスを実施した。参加者からは、就職先の現状や保護者として子どもの就活の支援のあり方を学んだとの感想を得た。</p> <p>④ハローワーク職員による相談を活用した学生数は26人であった。学生からは具体的な活動方法を学んで就活ができたとの意見が寄せられた。</p> <p>⑤(音楽科) コロナ禍のため、カワイ以外の企業説明会が実施できなかったが、就職希望9名が就職、進学・編入学希望7名が進学・編入学し、内定率は100%であった。教員採用試験受験者3名のうち2名が1次試験通過、うち1名が教員採用試験に合格した。 (人間福祉学科) 就職希望者23名が内定を取得した。また、2名が社会福祉学科4年制大学への編入し、就職・進学内定率は100%であった。 (食物栄養学科) 就職希望17名が内定、4年制大学編入学希望2名が合格し、就職・進学内定率は100%であった。</p> <p>⑥SPI 検査の実施は、学生に良い刺激となった。</p>	<p>①引き続き、担任による学生面談の中で進路希望調査を実施し、専任教員で情報を共有して、進路支援を行う。</p> <p>②引き続き、コロナ禍による就職活動状況の変化に応じ、感染症拡大の状況を踏まえながら学科ごとに検討していく。</p> <p>③引き続き、保護者向け就職ガイダンスを計画し、実施していく。</p> <p>④ハローワークにおける学生へのサポートについて引き続き検討していく。</p> <p>⑤新型コロナウイルスの影響により就職活動傾向が例年と異なるため、学科の特徴に合わせて個別支援を強化していく。 (音楽科) コロナ禍において実施できなかったカワイ以外の企業就職説明会の実施を検討する。また、教員採用試験対策講座の実施を検討する。 (人間福祉学科) 引き続き、行政が主催する就職相談会等を活用しながら進路支援をしていく。 (食物栄養学科) 引き続き、栄養士関連企業のガイダンス実施を検討する。</p> <p>⑥実施時期、内容について引き続き検討する。</p>
<p>2. 就職・進学ガイドブックの活用と改善</p>	<p>就職・進学ガイドブックの改定を行った。現在の就職活動方法等に応じ内容を改定し、配布した。</p>	<p>新たに食物栄養学科を加えたガイドブックが、現実に即して活用できたかどうかを確認した。</p>	<p>今年度の内容を踏まえ、新版のガイドブックの作成について、特に今後ポータルサイトに掲載することを念頭に置き、内容を検討していく。</p>
<p>3. 就職キャリアに関する講座の開講と周知</p>	<p>外部講師による「就職対策講座」を開講した。3学科合同で4回(9月28日、10月5日、10月26日、12月21日)、学科ごとに1回(音楽科10月12日、人間福祉学科9月14日、食物栄養学科10月19日)、合計5回開催した。インターネット上で学内求人情報を確認できる方法を新たに導入し、説明会を1月15日開催した。</p>	<p>インターネット上での求人情報を確認する方法の説明会は、有意義であった。</p>	<p>開催時期、内容等、就職活動に活用できる方法について、引き続き検討する。</p>
<p>4. 就職(進路)活動激励会の開催</p>	<p>就職(進路)活動激励会を企画し、1月15日に実施した。</p>	<p>宇都宮共和大学と宇都宮短期大学の合同で開催した。学長・学部長・学科長の講話を行ない、就職活動への意識・意欲を高めた。</p>	<p>引き続き、開催時期、内容等を改めて検討し、就職へのより高い意識の啓発に努める。</p>

2020年度 研究・図書委員会 PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 学生の学習活動と教員の教育・研究活動の支援</p> <p>①人的・物的・財的資源を総合した図書館の環境整備をすすめ、学生と教職員を支援する。</p> <p>②「としょかんかわら版」を活用して、図書館の周知を図る。</p> <p>③シラバス記載の参考書を整備することで、学習支援を行う。</p> <p>④他館や研究機関等との連携協力をさらに進め、レファレンス業務を通して支援する。</p> <p>⑤日常の授業のほか、卒論指導等で、アクティブラーニングによる図書館の利活用を、教授会（PDCA 表）等で教員へ促進する。</p> <p>⑥図書館等の専門的職員（司書等）は、学生の学習向上のために支援を行う。</p>	<p>①人的・物的・財的資源を総合した図書館の環境整備をすすめ、学生と教職員を支援した。</p> <p>②「としょかんかわら版」を長期休暇（8月・3月）除き、毎月発行し図書館の周知を図った。</p> <p>③シラバス記載の参考書を整備し、学習支援を行った。</p> <p>④他館や研究機関等との連携協力（3件）とレファレンス業務（152件）を通して、支援した。</p> <p>⑤日常の授業のほか、卒論指導等で、アクティブラーニングによる図書館の利活用を、教授会（PDCA 表）等で教員へ促進した。</p> <p>⑥司書等は、学生の学習向上のために、シラバス掲載の参考書のリストを作成して、蔵書として購入するとともに、レファレンスやリクエストに随時対応して、学生の学習向上のために支援を行った。</p>	<p>①～④より、図書館は、人的・物的・財的資源を総合して環境整備をすすめて、学生と教職員を支援した。</p> <p>⑤では、教授会でも利活用の促進が発信された。図書館実績報告では、利用者と貸出し数がコロナ禍の影響か前年度より若干減少した。しかし、図書館の利活用について、「授業改善アンケート」では多数の実施報告が得られた。図書館を学習資源センター等として利便性を向上させて、学生の学習向上に努めている。</p>	<p>①引き続き図書館の環境整備をすすめ、学生と教職員を支援していく。</p> <p>②引き続き「としょかんかわら版」を活用し、図書館の周知を図っていく。</p> <p>③引き続き学修支援のためにシラバス記載の参考書の整備を実施していく。</p> <p>④他館や研究機関等との連携協力をさらに進め、レファレンス業務を通しての支援を進める。</p> <p>⑤引き続き、日常の授業のほか、卒論指導等で、アクティブラーニングによる図書館の利活用を促進するための検討をしていく。</p> <p>⑥引き続き司書等は、学生の学習向上のための支援を行い、図書館の利便性をさらに向上させていく。</p>
<p>2. 研究関連</p> <p>①専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、その他）は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげるために、学会報告や紀要投稿をすべての教員に引き続き奨励する。</p> <p>②専任教員個々人の研究活動の状況を引き続き「研究者名鑑」で、ホームページ上で公開する。</p> <p>③専任教員の科学研究費補助金、外部研究費等の獲得を奨励する。</p> <p>④コンプライアンス意識やモラルの向上のためのFD・SD研修を実施する。</p>	<p>①専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、その他）を学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげるために、学会報告や紀要投稿を教員に奨励した。また、研究紀要規程を宇都宮共和大学に合わせて検討し、改定した。</p> <p>②専任教員個々人の研究活動の状況を「研究者名鑑」でホームページ上で公開した。</p> <p>③専任教員の科学研究費補助金、外部研究費等の獲得を教授会や各学科会議で奨励したが、科学研究費補助金獲得者は1名のみであった。</p> <p>④コンプライアンス意識やモラルの向上のためのFD・SD研修2月12日に実施した。</p>	<p>①学会報告や紀要投稿を教授会において、「専任教員の研究紀要・研究センター投稿一覧」を提示して、奨励した。今年度の紀要投稿者は、3科を合わせて9名であった。</p> <p>④研修会実施後のアンケートより、コンプライアンス意識の向上がみられた。</p>	<p>①について、引き続き、教授会で投稿一覧表等を提示して、専任教員の研究活動を奨励していく。</p> <p>また、改定した研究紀要規程に則った研究紀要の発刊を促進する。</p> <p>④引き続き研究倫理研修会を実施していく。</p>
<p>3. 教育研究経費</p> <p>①教育研究経費は経常収入の20%程度を超えるようにする。</p> <p>②教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての資金配分を適切に行う。</p>	<p>①教育研究経費は経常収入の実績経常収入と教育研究経費を照合して20%を越えた。</p> <p>②教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての資金配分が適切になるように実施した。</p>	<p>①教育研究経費は経常収入の実績経常収入と教育研究経費を照合して適切であることを確認した。</p> <p>②「図書館整備実績」で確認し適切であった。</p>	<p>①引き続き、教育研究費の予算把握をして経常収入の20%以上になるようにする。</p> <p>②引き続き、教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての資金配分適切に行う。</p>

2020年度 地域福祉開発センター PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施する。 (音楽科) ①リカレント教育のためのピアノ研修会 1) 永岡信幸ピアノリカレント 2) 赤松林太郎リカレント ②音楽療法士専攻コースリカレント教育 ③日光英国・イタリア大使館別荘記念コンサート ④第2回日光田保沢青春コンサート ⑤東地区さくらまつり (人間福祉学科・食物栄養学科) リカレント教育 ①ご利用者理解のために - 生活史から - ②リハビリに係る研修会 ③医療的ケアに係る研修会 ④介護技術スキルアップ研修会 ⑤子どもの食事 ⑥低栄養のための食事 ⑦生活習慣病予防のための食事 ⑧管理栄養士国家試験対策開放授業</p>	<p>(音楽科) ①リカレント教育のためのピアノ研修会 1) 永岡信幸ピアノリカレント(10月3日) 2) 赤松林太郎リカレント(2月11日) ②音楽療法士専攻コースリカレント教育 ③日光英国・イタリア大使館別荘記念コンサート ④第2回日光田保沢青春コンサートは、コロナ禍による影響で延期となった(*2021年5月実施予定)。 ⑤ 東地区さくらまつり(延期) (人間福祉学科・食物栄養学科) ①、③～⑦は、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。②リハビリに係る研修会は、講師の来校が不可能になった(職場からの出講中止要請のため)。③ 医療的ケアに係る研修会 ⑧管理栄養士国家試験対策開放授業は、後期に実施した。</p>	<p>コロナ禍の影響で、公開講座、生涯学習、正課授業の多くが中止となったが、音楽科ではいくつかの講座は開講実施できた。 音楽科主催の①、②、③は、実施して好評であった。 人間福祉学科・食物栄養学科主催のイベントは広報活動とコロナ感染防止策を講じた開催方法を検討していく必要がある。</p>	<p>引き続き、学科毎にイベントを企画し、感染予防に留意しながら準備し、実践する。</p>
<p>2. 地域・社会の地方公共団体、企業(等)、教育機関及び文化団体等と協定を締結して連携する。 ①とちぎ子ども未来創造大学講座(栃木県教育委員会) 行楽シーズンに向けたおやつ作りとラッピングを学ぼう」 ②社会福祉行政新任職員研修会(栃木県社会福祉協議会) ③宇短附高校生活教養科3年「福祉授業」 ④宇短附高校生活教養科1年「福祉体験授業」 ⑤宇短附高校生活教養科2年「高大連携特別授業」 ⑥宇短附高校普通科応用文理コース2年 ⑦宇短附高校調理科1年「福祉特別授業」 ⑧宇短附中学1年福祉授業 ⑨わくわく春の大学体験講座</p>	<p>①～④、⑨については、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した。 ⑤～⑧については、新型コロナウイルス感染防止に留意して実施した。⑤宇短附高校生活教養科2年「高大連携特別授業」(10月17日) ⑥宇短附高校普通科応用文理コース2年(9月24日、10月1日、10月28日) ⑦宇短附高校調理科1年「福祉特別授業」(10月17日) ⑧宇短附中学1年福祉授業(2月25日) ⑨わくわく春の大学体験講座(3月20日)</p>	<p>コロナ禍の影響で地域福祉貢献活動の多くを中止したが、系列校との交流活動は実施できた。 イベントの企画については、行政等とのコラボ可能な企画を思索し、行政にも広報を依頼し、集客数を増やす工夫が必要である。その他の企画については、各学科のイベントの際に、広告を受付等に置いたり、ホームページ等を活用して広報していく。</p>	<p>引き続き、感染予防に留意しながら次年度以降の計画を進めていく。</p>
<p>3. 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献する。 ①「福祉車両」展示コーナー(栃木トヨペット) ②長坂のサンマ祭り ③福祉施設の制作物の展示・販売 ④Tiny(障害幼児と親子のつどい) ⑤栃木県済生会宇都宮病院緩和ケア病院でのミニコンサート ⑥日本赤十字足利赤十字病院 ⑦上都賀総合病院認知症カフェアダージョ ⑧社会福祉法人正栄会 南の里クリスマス会(南の里デイサービスセンター/ケアハウス・あい・あはり) ⑨宇都宮市医療型児童発達センター(かすが園) ⑩社会福祉法人恵友会 こども発達支援センターぴーち ⑪学生ボランティア活動</p>	<p>①～③は、新型コロナ感染防止の観点から、大学祭を縮小化して実施したため、飲食物の販売も中止した。⑤、⑦、⑧、⑩についても、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した。④についてはオンラインで配信実施した。⑨は予定通り実施した。⑩については、2回公演にして、参加者を減らす配慮をしながら実施した。 ⑪の学生ボランティア活動は感染防止に留意しながら実施した。</p>	<p>感染防止に留意し、規模の縮小、可能な範囲と方法で次年度以降の計画を進めていく。 学生のボランティア活動についても上記と同様に、可能な場所で奨励していく。</p>	<p>引き続き、感染予防に留意しながら次年度以降の計画を進めていく。</p>

2020年度 大学運営・財務PDCA 報告

Plan	Do	Check	Action
<p>1. 基本方針</p> <p>大学運営に関する方針</p> <p>①大学の理念・目的の実現に向けて中期計画の遂行 ②教育研究を安定して遂行するための財務基盤のさらなる改善 ③明文化された規程に基づいての管理運営 ④大学業務を支援する事務組織の資質向上</p>	<p>①入学者増加による財務の改善を図った。</p> <p>②ガバナンス・コードを遵守した運営を実施した。</p> <p>③各種規程について、宇都宮共和大学と宇都宮短期大学の連携を図った。</p> <p>④アドミッションセンターの機能充実を図った。事務局員のSD研修を実施した。</p>	<p>①②決算書を精査し、2020年度の財務について検討した。</p> <p>③宇都宮共和大学と宇都宮短期大学の規程について、共通化のための検討を行い、整理した。</p> <p>④アドミッションセンター長を中心に、入試広報活動を連携して実施した。事務局員のSD研修を宇都宮共和大学と連携して実施し、業務内容の共通化と資質向上を図った。</p>	<p>①②引き続き、中期計画をもとに入学者の増加を図り、安定的な財務経営を目指す。</p> <p>③引き続き、規程の見直しを行う。</p> <p>④-1 引き続き、アドミッションセンター長を中心に、入試広報活動を連携して実施する。 ④-2 引き続き、SD研修を継続して資質向上を図る。</p>
<p>2. 施策</p> <p>①財務・管理運営について</p>	<p>①中期経営計画（2020～2024年度）を着実に遂行。</p> <p>②中期計画の進捗状況を精査した。</p> <p>③ガバナンス・コード（2019年度制定）に基づく管理・運営を行った。</p>	<p>・構内設備の充実のために、以下を実施した。</p> <p>①幹線LANケーブル及びLANケーブル入替を行った。</p> <p>②次年度入学生のChromebook保有に対応して無線LAN環境見直しとアクセスポイントを増設した。</p> <p>③講義室や学生食堂へのアクリル板を設置した。</p> <p>④中期計画の進捗状態を年度末に検討し、課題を抽出した。</p>	<p>①中期計画の修正。</p> <p>②引き続き、必要な構内設備の充実を図る。</p>
<p>②新型コロナウイルス感染症対策</p>	<p>①文科省・厚労省・栃木県からの通達文書による対応と、本学独自の対応を企画し、実施した。 ②学生・保護者への感染予防と対策（一斉メール）をした。 ③ホームページに予防と対策について掲載するとともに、3密を回避するための対策を実施した。 ④ソーシャルディスタンスのための座席指定をした。 ⑤校舎や各教室の入り口に消毒液を設置した。⑥校舎入り口にサーモカメラを設置した。</p>	<p>①文科省・厚労省・栃木県からの通達文書による対応と本学独自の対応を実施した。</p> <p>②年度内の学生の新型コロナ感染者はなしであった。</p> <p>③法人本部にPCR自動検査機を導入し、感染防止に役立てることができた。</p>	<p>①感染防止施設の維持管理。</p>
<p>③学生の修学支援について</p> <p>・法律施行規則第7条第2項の規定に基づく確認（更新）申請書の作成（文科省）</p>	<p>①「学生支援緊急給付金」の取り次ぎと申請の支援を行った。 ※2020年度の高等教育修学支援新制度（機関要件確認申請更新（9月認可））</p>	<p>①修学支援新制度について学生への周知と申請の支援を行った。</p> <p>②音楽科3名、人間福祉学科7名（うち1名は前期のみ）、食物栄養学科1名に給付された。</p>	<p>①引き続き、新制度に基づく支援の周知と申請の支援をしていく。</p>
<p>④事務職員の意欲・資質の向上を図るための研修・補完体制</p>	<p>①定期ミーティング（毎週金）を実施した。</p> <p>②SD研修を実施した。</p>	<p>①、②より、職員間の連携と意欲が高められた。</p> <p>10月…高校訪問から見る大学進学アドミッションセンター</p> <p>2月… 大学と企業の情報交換からキャリア相談室</p>	<p>①定期ミーティングを継続し、事務職員間の質の向上と連携を図る。</p> <p>②引き続き、SD研修を計画して実施していく。</p>
<p>⑤アドミッションセンターによる各キャンパス間の連携充実</p>	<p>①アドミッションセンターの活用充実を図るために、業務内容の検討と他の教職員との連携体制を検討し、実践した。</p>	<p>①アドミッションセンターの業務内容が充実し、他の教職員との連携が円滑になった。週2回程度、各キャンパス間の情報交換を実施する。</p>	<p>①引き続き、アドミッションセンターと連携して各キャンパス間の連携を充実させ、入試広報活動を実施していく。</p>
<p>⑥Zoom 広報等についての各キャンパス間連携</p>	<p>①ホームページへ「オンラインオープンキャンパス」サイトを開設（大学・短大共同掲載）した。②オンラインでFD研修や各種会議、業者等の打ち合わせ等を実施した。</p>	<p>①ホームページへ「オンラインオープンキャンパス」の開設で、広報活動を広げることができた。</p> <p>②オンラインで教育活動や業務の遂行を続けることができた。</p>	<p>①引き続き、内容を更新してホームページへ「オンラインオープンキャンパス」を掲載する。</p> <p>②引き続き、担当者を決めて必要に応じてオンラインFD研修や会議を実施する。</p>